

ルカ 14・25-33

今日の福音にも、エルサレムへの道を進まれるイエスが残されたみことばが響いています。あのとき、エルサレムを目指す道を行かれるイエスは、付き従ってくる人々の方を振り向いて、今日私たちが聴いたみことばを語られたのでした。

今日のミサの中で、私たちはこのみことばを、私たちが信じているイエス・キリストのみことばとして聴きました。私たちは私たちが信じているイエス・キリストをどのようなお方として信じているのでしょうか。私たちが信じているイエス・キリストは十字架の死を越えて復活され、父なる神の右の座についておられるイエス・キリストです。私たちは今日もこのミサの中で、私たちが信じているそのイエス・キリストに向かって、私たちの主イエス・キリストとその御名を呼んでいます。エルサレムに向かう旅の途上で、着き従って来た人々の方を振り向いて、今日の福音のみことばを語られた私たちの主イエス・キリストは、神の栄光の座から、ここに集う私たちに目を留めてくださって、私たちが聴いたこのみことばを語り聴かせておられるのです。そのようなみことばとして、今日の福音のみことばにあらためて心を向けたいと思います。

イエスに着き従って来た人々にとって、エルサレムへのこの旅は自分たちが計画した旅ではありません。今日の福音に語られている人々は、律法の掟に定められている年数回の祭りの度ごとに、晴れやかな興奮に満ちた心で、幾度もこの道を行き来してきたことでしょう。しかし、過ぎ越しの祭りもまじかなこの時期に、イエスの後に着いてエルサレムに上るこの旅は、それまでの何の屈託もない、祭りの華やかな雰囲気にも包まれたものではなかったのです。その旅の途中、イエスは一度ならず、エルサレムでご自分を待ち受けている運命について包み隠さず話し始められたからです。今日私たちが聴いたみことばもそのようなみことばです。御自分に着き従って来た人々の方を振り向いてイエスが語られた今日のみことばは、イエスの目にははっきりと見えているエルサレムで起こるであろう全てのことを、父なる神から与えられた御自分の使命として受け入れようとしておられるイエスのみことばです。イエスはエルサレムへのこの旅をとともにしようとしている人々に、御自分の覚悟を打ち明け、その覚悟をとともにするように、語りかけておられるのです。私たちは、あのときイエスが語られた今日の福音のみことばを、イエスとともにエルサレムへ行こうとしていた人々がどのように受け止めたか、あるいは、どのように受け止めそこねたかを知っています。人々は、イエスの後についてエルサレムを目指すこの旅

が特別なものであることは意識していたのです。彼らは、イエスの語られる神の国の福音のメッセージに心引かれてイエスの一行に加わった人々です。イエスは、彼らに馴染み深い旧約の預言者たちのように遠い未来の神の国について語っただけではありません。イエスに着き従って来た人々は、イエスのみことばに耳を傾けることによって、預言者たちが告げていた神の国が、イエスが語られるように、今自分たちの中に到来しつつあることを感じ取っていたのです。彼らが聴いたイエスのみことばは、権威ある教えでした。イエスが命じられると、悪霊はそれまで憑りついていた人の中から、彼らの目の前で、大声を上げて追い出されて行ったのです。病に苦しむ人々、障害を負った大勢の人々が、イエスの一言によって癒されるのを彼らは目撃してきたのです。イエスのうちに神の大いなる力が働いていることを知った人々は、自分たちの中に神の国の実現をもたらすメシアへの期待をイエスに投影していたのです。今自分たちがイエスとともにそこを目指して進み行くエルサレムは、預言者たちが告げていることによれば、神からのメシアが最終的にそこに現れる神の都です。人々は、エルサレムで待ち受けている受難を予告するイエスのみことばを耳にしながらも、なお、イエスとともにたどる彼らの旅の彼方に、彼らがメシアと信じたイエスによって、決定的な神の救いの出来事が起こることに期待をにかけていたのです。そのような期待にすぎりつくようにして人々は、イエスがこれほどまでにはっきりと予告しておられるイエスの受難の地となったエルサレムへとイエスの後について歩を進めて行ったのです。今日の福音に語られている人々は、自分たちがイエスに寄せていた期待によって、自分たちがイエスに託した自分たちの夢にすぎりつくことによって、今日の福音の中でイエスが語られているみことばから身をそらしてしまう結果となったのです。今日私たちが聴いたイエスのみことばにもかかわらず、全てを捨てて十字架の道へと歩み行かれるイエスに従う用意が彼らの中には出来てはいなかったのです。

聖書は、そこに語られていることが、時代を超えてそれと向かい合う者たちに向けて語られている神からのメッセージとして、教会が大切に保存し伝えてきた書物です。信仰の集いであるミサの中でその聖書のみことばを聴くことによって、私たちは今日私たちに教え諭しておられる主のみことばを聴くのです。今日の福音の主のみことばは、主のみ後に従おうとする私たちの信仰の歩みを顧みるように私たちに促しています。信仰年はまだ終わってはいません。今日の福音に即して言うなら、あのとき、御自分の後につき従う人々の方を振り返ってイエスが言われたみことばに照らされて、私たちのカトリック信者としての信仰を振り返るということこそ、私たちの信仰年の精神であったはずです。

「もし誰かがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、さらに自分のいのちであろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子で

はありえない。自分の十字架を背負って着いて来る者でなければ、誰であれ、わたしの弟子ではありえない。」と、今日も主は私たちに語りかけておられるのです。このみことばを受け止めて、今日新たに私たちの歩みを振りかっつて顧みることが、カトリック信者として私たちの信仰の歩みを振り返るということであり、それこそが信仰年の精神と言えるでしょう。

十字架の死をもって、私たち全ての者に永遠のいのちへの道を開いてくださった、私たちが信じている主イエス・キリストは、その御跡に従おうとする私たちを十字架のもとにまで導き、十字架の前に立たせて下さろうとしているのです。何故イエスは、私たちにとってかけがえのない、愛する肉親さえも、さらには、この世における自分自身のいのちさえも憎まなければ、どこまでもイエスに着き従うイエスの弟子ではありえないとまで言われるのでしょうか。私たちが生きるこの世の人生に最終的な意味を与える私たちにとってこれらのかけがえのないものを、イエスが諭しておられるように手放す覚悟が出来ていなければ、私たちはこの世のしがらみから脱して、一人の人間として真の自分自身になることが出来ないからです。私たちが信じている私たちの救い主イエス・キリストは、イエスの後につき従う群衆としての私たちではなく、聖母のお姿に示されているように、イエスの十字架の前に立つ一人の人間としての私たちに出会うことを求めておられるのです。私たちにとっての信仰とは、イエスが招く十字架の道への旅立ちなのです。その覚悟を新たにしよう今日のみことばは私たちに呼びかけているのです。

十字架こそが私たちを永遠のいのちに招き入れる狭い戸口なのです。全てを置いてその戸口をくぐる事が出来た時、私たちはイエスの御跡につき従って来た、イエスの弟子としての私たちの旅の真の目的地に到達するのです。そこにおいて、私たちに先立って、私たちを導かれたイエスとともに、永遠のいのちそのものである神の懐に迎え入れられるのです。その神の永遠のいのちの懐の中で、この世において涙のうちに後に残してきた私たちが愛した者たちとの奪われることのない再会の喜びに満たされることでしょう。私たちに先立って十字架の道を進まれ、十字架の死を越えて復活された私たちが信じている私たちの主イエス・キリストは、今日のミサの中で、ここに集う私たち一人ひとりに改めてそのことを保証して下さるのです。そのようなイエスのみことばとして、今日の福音で聴いた主のみことばに深く心を留める恵みを願いたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高